

水害がおきたらその時どうする

水害時危険箇所

大雨が降ったとき、道路が低くなっているところや立体交差点（アンダーパス）では水がたまり危険となります。

■立体交差点（アンダーパス）

道路や鉄道の下を通るアンダーパスには水がたまり、通行できなくなります。



■低いところ（窪地）

アンダーパスの他、周辺より低くなっている道路も水がたまり、通行できなくなります。



■マンホールの異常を発見したら

降雨量が多くなるとマンホールのふたが外れたりすることがあります。危険ですから、近寄らず、市役所にご連絡ください。



■マンホールのふたを開けないで

道路に雨水が溜まった時に、皆さんがマンホールや側溝のふたを開けて水を流すことは、非常に危険です。



地下空間の危険性

水害のおそれがあるときは、地下空間にいる人は地上階に上がりましょう。

■地上が冠水すると一気に水が流れ込んできます

換気口、採光窓等、思わぬところから入ってくる可能性があります。また、流れ落ちる水で階段は登れません。



■地下室では外の様子がわかりません

地下室では雨の強さや天候の急激な変化がわかりませんので、気象情報等の注意が必要です。また、外の様子に変化があったときは地下室内の人に知らせましょう。



■浸水すると停電するおそれがあります

停電すると電灯が消え真っ暗になります。なお、エレベーターは使えません。



■水圧でドアは開きません

ある程度浸水すると、外開きでも内開きでもドアを開けることはできなくなります。



水害に備えて

●大雨や台風に向けて家のまわりを点検・整備

家のまわりに吹き飛ばされそうなものはないか、雨戸雨どいなどはいたんでいないか確認しておきましょう。また、家の前の排水溝が詰まっていないかなどの確認も必要です。



●一人暮らしの高齢者には気配りを

自分の家族や住まいだけでなく、地域全体にも目をむけましょう。特に、一人暮らしの高齢者や病気の人たちには、日常からの気配りが必要です。

